

シラバス

2023 年度

研究科

本物にふれる 本当の力をつける



学校法人高澤学園 美術造形専門学校

創形美術学校

ファインアート科 / ビジュアルデザイン科 / 研究科

履修ガイド

1. シラバス・出講表

- (1) 各授業のシラバス・出講表として授業内容の他、学習目的、予習、準備物、注意事項とともに評価方法および教員・講師の出講日も記載。授業の1週間前にはアトリエに出講表を掲示。また学校ホームページでも確認することができる。
- (2) シラバスには次の内容が記載されている。
「授業名」「担当教員」「授業期間」「学習目標」「授業内容」
- (3) 出講表には次の内容が記載されている
「授業名」「担当教員」「受講アトリエ」「修得単位」「授業内容」「授業スケジュール/計画」「指導日」「学習目標」「予習・準備物」「注意事項」「評価方法」
- (4) 指導日以外は授業が休みということではない。指導日以外の「自主制作日」も各自で制作を進めること。授業期間で制作を行うことで時間数に基づき単位がそれぞれ設定されている。スケジュールを確認し、作品提出日をしっかりと守ること。
- (5) シラバス、出講表、年間行事は学校ホームページで閲覧できる。
(創形ホームページ→学生生活→スクールガイド→シラバス・出講表)
※年間行事の変更があった場合には、その都度更新される。

2. 単位

単位認定

各授業科目について基準に従って履修し合格すると、その授業科目に割り当てられている単位が与えられる。授業毎の修得単位は「出講表」に記載される。単位取得には成績および出席も含め総合的に判断される。授業科目には「学科科目」と「実技科目」からなる。(P10「4.単位制度」参照)

- (1) 「学科科目」「実技科目」とともに、各授業の基準に従い、合格と認定された学生には、所定の単位を与える。
- (2) 各授業科目に対する単位は以下のような算定基準に基づき授業が開設される。
1 コマ(90分)の授業が前期、または後期に週1回を基準に開設されている授業に対し1単位を基準とする。2 コマ(180分)の集中授業が3~4週間を基準に開設されている授業に対し2単位を基準とする。
※1単位:約25.5時間=1コマ17週相当
- (3) 各授業の修得単位数は「出講表」に記載されている。

進級の単位数

進級するには、1年間の修得単位が32単位以上なければならない。

卒業・修了の単位数

本課程を卒業するには3年以上在学し、かつ所定の96単位以上(編入生は2年以上在学し、合計64単位以上)修得しなければならない。研究科は1年以上在学し、かつ所定の32単位以上修得しなければならない。

3. 履修

- (1) 授業について単位を修得するためには2/3以上の出席が必要となる。止むを得ず授業を欠席する場合、必ず事前に学校へ連絡すること。
- (2) 原則、指導日の授業開始時に出欠確認を行う。遅刻・早退は記録し、3回をもって1回の欠席扱いとなる。
- (3) 交通機関の遅れに関しては必ず遅延証明書を授業担当教員へ提出すること。
- (4) 学生の履修は在籍する科の指示に従い、受講する科目は原則として全て履修する。
- (5) 学生は出席率85%を最低水準レベルとして求められる。
- (6) 選択科目に限らず授業登録は、授業途中からの受講や、受講を途中で取りやめることはできない。
- (7) 選択を希望する科目で受講人数が多い場合は、人数制限を行うことがある。

4. 採点

- (1) 受講した科目は課題(レポート含む)を提出しなければならない。
- (2) 必要に応じて授業内で課題(レポート含む)提出を複数回、行うことがある。
- (3) 科目の採点は、授業終了時に授業担当教員によって行われる。
- (4) 採点の方法は課題(レポート含む)の提出を含む総合的な評価で採点する。
※評価方法はシラバスに掲載。
- (5) 受講した科目の出席日数が3分の2以上に満たない者は、原則として採点を受けることができない。

5. 追採点

病気その他やむを得ない事由により課題(レポート含む)を提出することができなかった者に対し、事前にその旨連絡のあった場合に限り、願い出により実施することができる。ただし課題(レポート含む)内容は授業内の課題(レポート含む)と異なる場合がある。

6. 成績評価

成績は 100 点満点とし、60 点以上を合格として 5 段階で評価する。

- (1) 採点は、60～100 を合格とし、それ以下を不可とする。
 - (2) 配点区分は下記に記す。
 - (3) 「実技科目」の成績評価は、定められた単位数に応じて課される課題作品・論文のすべてが対象になる。成績評価に当たっては、出席回数が授業回数の 2/3 以上になっていることや、学習状況等、総合的に判断される。一つの授業科目で未提出課題作品・論文があると、その科目の単位は認定できない。課された作品・論文はすべて指定された日時に必ず提出すること。提出期限に遅れた作品・論文の提出は原則として認められない。ただし担当教員が許可した場合はその限りではない。
 - (4) 作品、レポート等の提出物に関し、履修者以外の者が代理で作成、または他の者が作成した作品レポート等を自ら作成したとして提出した場合は不可とする。
 - (5) 本課程は前期、後期授業において学期末に学科・実技の履修状況の確認を学生・保護者に郵送する。単位不足のある学生は学校の指示に従い、不足分の単位修得を行わなければならない。
- ※住所が変わった場合等は必ず事務窓口申し出て、手続きをする必要がある。

採点	評価	
100～95	AA	合格
94～80	A	
79～70	B	
69～60	C	
59～0	D	不可
保留	-	仮処置

GPA(Grade Point Average)成績評価制度

創形では、5 段階の成績評価と GPA(Grade Point Average)制度を導入している。GPA とは 1 単位あたりの成績の平均値を示すもの。成績評価の 5 段階評価で GPA を算出、表示することで学修の到達度がより明確に示される。その目的は学生一人ひとりが自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的、意欲的に学修すること。5 段階評価や GPA 制度は外国の多くの大学が採用しており、国際化に対応した成績評価方法。留学や大学院進学等を希望する場合には必要な制度となる。

7. 休講

やむをえず休講となる場合は、授業内、ホームルーム、G-mail 等にて伝達する。補講は原則行わない。

8. 再履修・仮進級

採点の結果「不可」となった者は、次年度以降において原則としてその科目を再履修しなければならない。ただし在籍学年の履修を優先とするため、履修科目の変更、または再履修年度の変更についての決定は学校の指示に従うこととする。修得単位数が1年次、2年次それぞれで15単位以下、または1～2年次を通じて合計32単位以下は留年となる。16単位以上で所定の32単位に足りず、進級判定審査において判定された場合は「仮進級」という扱いになる。

- (1) 採点の結果、点数が59点以下の場合は「不可」となり、原則として次年度以降において再履修となる。授業担当教員による採点が「保留」と評価された場合は、追課題(レポート含む)が課せられる。追課題の採点は専任教員の判断に委ねられ、成績会議によって判定される。
- (2) 提出日より遅れての提出や、課せられた追課題の提出等が授業担当教員、あるいは専任教員に認められた場合には総合的な判断で採点し、合格と認定された場合のみ単位習得となる。

9. 専攻を越えた授業

専攻を跨いで受講することが可能。ただし専任教員の許可が必要。

- (1) 授業開始の2週間前までに「受講届」を直接専任教員に提出。面談し、了承を得てから受講すること。
- (2) 授業によっては、そこで使用する道具、機材やアプリケーション等の関係で受講できないことがある。
- (3) 原則、自身の専攻を疎かにしない範囲での受講となる。
- (4) 「受講届」は学校ホームページよりダウンロードできる。
- (5) 専攻を跨いで受講した授業における単位は、その授業の修得単位とする。

10. 卒業制作

3年次後期に卒業制作を提出し、その単位(16単位)を修得しないと卒業できない。卒業・修了制作は定められた日時までに必要な書類、作品を提出すること。規定日時以降の提出は無効となる。

※不慮の事故、交通機関の遅延等により定められた日時に持参して提出できない場合は、必ず

期限以内に学校に電話でその旨を連絡する必要がある。

※交通機関の遅延等で提出が遅れる場合は、駅長又は交通機関の発行する遅延証明書を持参しなければならない。

11. 卒業・修了資格判定および卒業・修了判定

- (1) 卒業・修了年次の11月に卒業・修了資格判定会議にて「卒業・修了資格判定」を行う。また翌年の2月に卒業・修了判定会議にて「卒業・修了判定」を行う。
- (2) 卒業・修了資格判定会議にて成績、出席等、総合的に審査し、「合格」と認定された者は、卒業・修了制作に着手できる。また「判断保留」と判定された学生についても、同様に卒業・修了制作に着手できる。審査の結果「卒業・修了不可」と判定された者は、卒業・修了制作に着手することはできない。
- (3) 卒業・修了判定会議にて単位修得状況、成績、出席、卒業・修了制作規程違反の有無等、総合的に審査され、「合格」と認定された者は、卒業、あるいは修了が認められる。「卒業・修了不可」と判定された者は、留年、退学、もしくは除籍となる。また「卒業・修了保留」と判定された者は、要件付きで3月末日、9月末日、ないしは翌年3月末日の卒業延期となる。その場合、期日までに要件を満たし、かつ卒業・修了判定で「合格」と認定される必要がある。期日までに要件が満たされない場合、1年間までは卒業延期となる。ただし、1年間を経過しても要件が満たされない、あるいは「卒業・修了不可」と判定された場合は退学、あるいは除籍となる。
- (4) 「卒業・修了保留」と判定された者のうち、特に情状が考慮された場合に限り、通常の卒業が許される。
- (5) 卒業・修了資格判定にて「判断保留」と判定された学生のうち卒業・修了判定会議にて「合格」と認定された者は、その時点で「判断保留」が解除される。

12. リモート(遠隔)授業

本校では対面授業の他にリモート(遠隔)授業を行う。リモート授業はスマートフォンでの受講も可能であるが、可能であればパソコンやタブレットでの受講を推奨する。十分な環境が整っていない学生のために学内に受講教室が用意されている。またネット環境が不安定で映像や音声がかかる等の恐れがある場合も学内の受講教室での受講を推奨する。

リモート授業は以下の2タイプの授業形態である。

- (1) 「リアルタイム授業」はZoomを使用してリアルタイムに行う授業である。
- (2) 「オンデマンド授業」は創形特設ページ(限定公開)にアクセスし、録画された動画を視聴し、受講する授業である。動画視聴は創形生のための非公開となる。パスワードは学外に

漏れないように取り扱いには充分注意すること。

※授業の形態や授業の進め方に関しては授業担当教員から説明される。

リアルタイム授業の進め方

- (1)リアルタイム授業はあらかじめ Zoom をインストールして授業を行う。スマートフォンでも受講可能。
- (2)Zoom の表示名は必ず学籍簿登録の氏名とすること。学生登録名になっていない場合、欠席扱い、あるいは退出させることがある。
- (3)Zoom アカウントの ID とパスワードは事前に各授業ごとにメールで通達する。
- (4)配布する授業資料がある場合は Zoom アカウントの ID 等と共に連絡し、本校ホームページ、あるいは Google Classroom へ PDF でアップするか、登校時に配布する。受講生は事前に目を通し、場合によってはプリントアウトしておくこと。資料を閲覧できるのは創形生のみ非公開となる。取り扱いには十分に注意すること。
- (5)授業は原則、通常の授業時間で行う。授業開始 5 分前までに準備し、接続すること。
- (6)できるだけ静かな場所で背景に映り込むものに不都合がないか確認し、受講すること。ハッキングや情報漏洩のリスク軽減のため、フリーWi-fi の使用は推奨されない。
- (7)ウェブカメラ付きのパソコンやスマートフォン等を使用し、カメラは必ず ON にし、マイクはミュートにして受講すること。質問など発言する際にマイクのミュートを解除して使用すること。発言する際には必ず教員の許可を得ること。
- (8)教員への質問はチャット機能を使用するか、教員が許可した場合にマイクのミュートを解除して行うこと。教員の音声途切れた場合等も同様にチャット機能を使用するか、マイクのミュートを解除して質問、または再度話し直してもらうようお願いすること。
- (9)授業時間内での Zoom での対応は教員の指示に従うこと。一時的に Zoom から退出する場合は、担当教員に必ず許可を得ること。
- (10)自宅のネット、パソコン環境が不十分な学生は学内の受講教室にて受講すること。またリアルタイム授業終了後に次の授業までの登校時間が確保できない学生も同様に学内の受講教室にて受講すること。

リアルタイム授業の出欠・採点

- (1)担当教員が Zoom で確認して出欠を取る。あるいは Zoom の録画機能を使用する。遅刻した場合はチャットあるいは音声にて必ず担当教員へ申告すること。また途中での退席は早退扱いとなるので注意すること。一時的に Zoom から退出する場合は、担当教員に必ず許可を得ること。

- (2) 作品、レポートの提出は授業担当教員の指示に従うこと。採点は対面授業と同様の方法で行われる。
- (3) データでの提出は担当教員の指示に従い、Google ドライブ、DropBox 等で提出することもある。
- (4) 作品データを添付する場合は 10MB 以内にすること。10MB 以上のデータサイズの場合はオンラインストレージサービス等を使用すること。以下参照。
オンラインストレージサービス <ギガファイル便> <https://gigafile.nu/>
※1 ファイル=200GB まで可能。使用方法が分からない場合はメールにて学校へ問い合わせること。

オンデマンド授業の進め方

- (1) オンデマンド授業は、Gmail アカウントを使用する。
- (2) 創形特設ページ(限定公開)にアクセスし、録画された動画を視聴して行う。スマートフォンでの受講も可能。
- (3) 創形特設ページのアカウントの URL や ID、パスワード等を事前に通達する。
- (4) 授業動画は、各自でアクセスして視聴すること。1 回の授業に対してレポートか作品制作などの提出物がある。提出日に注意し、遅滞なく提出すること。それらの提出が無い場合は受講したことにならないので注意すること。
- (5) 授業内で作品に対する講評やコメントに関してもオンラインで行うことがある。
- (6) 配布する授業資料がある場合は、創形特設ページのアカウント ID 等と共に連絡し、本校ホームページ、あるいは Google Classroom へ PDF でアップするか、登校時に配布する。受講生は事前に目を通し、場合によってはプリントアウトしておくこと。動画視聴、および資料を閲覧できるのは創形生のみとなる。パスワードは学外に漏れないようにまた資料の取り扱いには充分注意すること。
- (7) 自宅のネット、パソコン環境が不十分な学生は学内の受講教室にて受講すること。

オンデマンド授業の出欠・採点

- (1) 授業の形態や授業の進め方に関しては授業担当教員から説明される。
- (2) 授業の出欠は作品、レポート等の提出物が期限内に提出されたことの有無で担当教員が取る。期限内に必ず提出すること。
- (3) 作品、レポートの提出は授業担当教員の指示に従うこと。採点は対面授業と同様の方法で行われる。
- (4) データでの提出は Google ドライブ、DropBox 等で提出することもある。

- (5) 作品データをメールに添付する場合は 10MB 以内にすること。10MB 以上のデータサイズの場合はオンラインストレージサービス等を使用すること。(上記参照)

リモート授業における禁止事項

- (1) ビデオ通話、音声通話の、録画・録音・撮影は禁止。また転記することも禁止。
(2) 許可なく誰かを同席させるのは禁止。もしも同席を希望する場合は、事前に教員の許可が必要。

13. 提出作品・参考作品

提出のあった課題作品、およびレポートについては原則として採点終了後、速やかに返却を行う。返却された作品は速かに持ち帰ること。返却された作品が放置されていた場合に処分することがある。場合により参考作品として一定期間預かり、授業の資料として授業時やガイダンス等で使用することがある。また、学校案内用の印刷物や広報(ホームページ、SNS など)および学校外等、授業以外での目的で作品や授業風景画像を使用することがある。

14. 授業単位サポート制度

「授業単位サポート制度」とは単位修得をサポートするための制度。いずれも専攻担当専任教員と面談を通じて認定される。

代替授業・学外活動を通じて認定

- (1) 所属専攻、該当学年の授業以外の授業を受講することによる単位修得(単位数:受講授業単元に準ずる)

※所属専攻の授業と重複した場合は受け入れ授業の担当教員の許諾により、途中からの受講、中抜けも認め、その場合のみ出席扱いとする。

- (2) インターンシップに参加、レポートを提出することによる単位修得(単位数:1 単位)

※2 年次の「インターンシップ」の授業と同様のインターンシップを、授業以外の期日に行った場合に認める。「インターンシップ」の授業同様に書類、レポート提出が必須。採点方法は受入会社の評価に従い採点。

- (3) ボランティア活動等による単位修得(単位数:活動期間に準ずる)※単位認定は原則、実質 1 日 8 時間のボランティア活動を 5 日行う事で 1 単位とする。事前に専攻担当専任教員による面談を行い、ボランティア活動を行った後に「ボランティア活動報告書」の提出をもって認定。採点評価。認定される。

ボランティア活動に、豊島区の国際アート・カルチャー活動を含む。

(4)学外コンペに出品することによる単位修得(単位数:1 単位)

※専攻担当専任教員にコンペの内容を事前に報告し、出品前に専攻担当専任教員の講評を受けて出品すること。ただし授業の一環として行われたコンペの出品は認められない。

例:「日本タイポグラフィ年鑑学生部門」「アワガミ国際ミニプリント展」「回遊美術館」
「GU タペストリーコンペ」 etc

特別支援授業を通じて認定

特別支援授業を受講することによる単位修得(単位数:各 1 単位)

受講料:1 講座 15,000 円/採点方法:提出作品、試験、レポート等によって採点。

※特別支援授業とは、単位取得を支援するために行われる授業。春期休暇、夏期休暇に「学科科目」と「実技科目」が開設。授業日の前の週までに事務局窓口で受講することを告げ、受講料を支払うことにより受講が認められる。

※新型コロナウイルスの感染症拡大の影響に伴い授業日程（時期・期間・時間帯など）、授業内容、使用アトリエなどが変更になることがあります。詳細は出講表を確認してください。

研究科アート・デザイン専門課程／美術進学課程
シラバス

【研究科】

目的

大学や専門学校を卒業後、1年間でより深く専門分野の知識や技術を取得し、以下の事を目的とします。

「自立した創作、研究活動の確立」

「プロに必要なビジネススキルを習得」

〈アート・デザイン専門課程〉

アートやデザインを更に研鑽するための「アート・デザイン専門課程」は[オーダーメイドカリキュラムシステム]で自身の研究テーマに合わせてオリジナルカリキュラムを自在に組み合わせることができます。また作品発表の場やビジネスを学ぶ授業のほか、グローバル社会を意識した講座や研修制度など多様なカリキュラムを用意しています。

■アート研究コース

アート研究コースは、自身の研究テーマをより深く掘り下げていくことを目的としています。展覧会などの作品発表を中心に、指導教員とのディスカッションを通して作家になるための研鑽を行っていきます。

○絵画専攻分野

教員は全て現役の絵画作家。あるいは美術評論家。「フレスコ画」「テンペラ画」「グリザイユ」などの古典技法を扱う作家から世界的現代アーティストや人気の評論家まで幅広い教員が揃っています。

○版画専攻分野

「木版画」「銅版画」「シルクスクリーン」「リトグラフ」などの四版種それぞれを専門とした現役の作家のほか、プロの刷り師の教員も在職。世界でも評価の高い日本の版画を、実習を中心に指導していきます。

「実践的作品発表の場、学外展覧会」

創形は学内外での作品展示の機会を多く設けています。学外展覧会は実践的な作品発表の場として作家へステップアップするきっかけとなったり、自分の現在地を確認する貴重な機会となります。修了制作作品展は多くの方が訪れる都内ギャラリーにて展示され、特に優れた

作品に高澤賞が授与されます。

※高澤賞受賞者は翌年にギャラリー・ブント（本校内ギャラリー）にて個展が開催できます。

「オーダーメイド カリキュラムシステム」

創形の授業カリキュラムは5専攻分野に分かれて組まれています。自分の専攻分野を中心に担当教員が希望を聞きながら、学習目標達成に向けたカリキュラムを一緒に考えていきます。希望の講座を組み込みでき上がったオリジナルカリキュラムを通して、表現技術の研鑽を深めていきます。一年間という短期間で高度な専門技術を身につけたい人も、自分が学びたい講座を集中して受講することが可能となります。

※大学院受験専用のカリキュラムは、オーダーメイドカリキュラムで選択できません。

「グローバル社会を意識した世界水準の教育」

創形美術学校は常に世界レベルの高度な教育を維持していけるように、積極的に国際交流を努めてきました。欧州・北中米といった国々からアーティストを招き、講演会や展覧会・ワークショップなどを開催しています。また研究生の海外への留学研修制度も充実。フランスやメキシコとは国際芸術交流の提携を結び、これまでも多くの研修生を派遣してきました。世界のアートシーンの現在を知ることにより、広い視野や世界を意識した考え方で自身の研究テーマに取り組めるようになります。英語やフランス語、日本語などの語学講座も充実し、グローバルな社会を見据えて幅広く学ぶことができます。

〈デザインビジネスコース〉

デザインビジネスコースは、デザイナーやクリエイターとしてビジネスに必要なスキルを学ぶ事を目的としています。

■プロによるマンツーマン指導

「デザインビジネスコース」は、デザイナーやクリエイターとしてビジネスに必要なスキルを学ぶ事を目的としています。クリエイティブ業界で使用されるアプリケーションを学ぶほか、先端メディアの活用方法、マーケティング、知的財産権などビジネスに欠かせない講座があります。またポートフォリオの制作やインターンシップを通して実践的なビジネスを学ぶこともできます。

※「デザインビジネスコース」では担当教員が研究生と面談のうえ、インターンシップを斡旋します。

■デザイン系の3つの専攻分野

創形の教員は全員がさまざまな分野の第一線で活躍しているプロのクリエイターです。いわゆる教科書的な指導ではなく、実際の現場に必要な知識や技術など、プロとして活躍するうえで大事なポイントを指導していきます。

デザインプロダクションなどへの就職を目的として、会社が求める知識や技術の習得や、将来起業するために必要なことも学べるのが、このコースの特徴です。

○イラストレーション・絵本専攻分野

出版界、広告業界など第一線で活躍するイラストレーターその他、絵本作家、アートディレクター、編集者など業界に携わるプロが揃います。研究科生の個性を重視した指導は各自の研究テーマを掘り下げる指導でもあります。

○グラフィックデザイン専攻分野

パッケージデザイナー、WEBデザイナー、ブックデザイナー、映像ディレクター、大手広告代理店のアートディレクターなど、様々なプロのグラフィックデザイナーが今起きている現場での体験を踏まえて指導します。

○メディアデザイン専攻分野

アニメーション作家、漫画家はもちろんのこと、映像ディレクター、コンポザー、ゲームイラストレーター、カメラマン、監督など映像制作に関わるクリエイターが揃います。3DCGなど最先端のアプリケーションの技術指導も行います。

■デザインビジネスに欠かせない講座

これからのデザインビジネスにおいてもっとも必要とされるマーケティングやブランドプロデュース、著作権などの知的財産権の講座、WEBやSNS、VRなど先端メディアの授業を揃え、また実践的ビジネスを学ぶためのインターンシップの斡旋なども行っています。

〈美術進学課程〉

美大大学院合格を目指す「美術進学課程」は、有名美術大学の教授や教員を招いての講座の他、研究計画書や小論文、面接対策など、美術大学大学院受験対策に特化した受験カリキュラムが組まれています。

○ファインアートコース

○ビジュアルデザインコース

美術進学課程には、ファインアートコースとビジュアルデザインコースがあります。その2つのコースは更に5つの専攻分野に分かれています。

■芸大・美大大学院への進学に特化した課程

美大大学院合格を目指す「美術進学課程」は、有名美術大学の教授や教員を招いての講座の他、研究計画書や小論文、面接対策など、美術大学大学院受験対策に特化した受験カリキュラムが組まれています。

「美術進学課程」には、ファインアートコースとビジュアルデザインコースがあります。その2つのコースは更に、5つの専攻分野に分かれています。自身の志望大学院の研究室に合わせて選択してください。それぞれの専攻分野には大学院の専門領域に詳しい教員が在職しています。

※「美術進学課程」は大学院合格を第一とした受験専用の課程です。アート・デザイン専門課程のようなオーダーメイドカリキュラムシステムには対応していません。

■有名美大の教授や教員による授業を開設

ここ最近の傾向として益々高騰している大学院受験倍率。しっかりとした対策を練らないと合格が難しくなっています。創形の美術進学課程は、大学院合格を第一とした受験専用のカリキュラムを設け、大学院受験に取り組む事により、多くの実績を残してきました。

創形の「美術進学課程」では、美術大学の教授や教員による授業が組まれています。多摩美術大学、武蔵野美術大学、女子美術大学、東京工芸大学、京都芸術大学など有名大学で実際に教鞭を取っている教員が大学院進学における解説や対策のほか、学生一人ひとりの研究テーマや作品に対応した指導を行います。

■研究テーマの確立を目指す講座

大学院では自身の研究テーマとその目的が確立していることが合格の必須条件となっておりますが、そこに苦慮している受験生が多く見受けられます。そこで創形では「総合研究ゼミ」としてそれぞれ専門の教員による研究計画の講座を設けています。研究テーマの立て方や問題点、テーマに沿った作品制作など、学生一人ひとりに適切なアドバイスをします。

■論文作成の講座や面接対策

昨今の大学院試験では、ますます小論文の得点を重視する傾向にあります。創形では小論文対策の講座や、問題として出されるテーマや専門用語の解説などを行う講座が組まれています。せっかく論文や研究テーマが良く、作品の出来映えも申し分ないのに、面接で不合格となる受験生もいます。創形では面接での受け答えなどの対策をしっかり行います。

研究科 アート・デザイン専門課程 単位一覧
 ■アート研究コース 絵画専攻分野／版画専攻分野

	授業科目		履修形式	単位数
学 科	日本語 1		選択	3
	日本語 2		選択	1
	絵画概論		選択	1
	絵画講座		選択	1
	版画概論		選択	1
	版画講座		選択	1
実 技	総合研究	総合研究	必修	1～16
小計 16 以上				
※修得する科目の合計が 16 単位以上にならない。				
	修了制作	修了制作	必修	16
	合計			32

学科科目：前期学科授業名：「絵画概論」 担当教員：早見 堯

授業期間：2023/04/13(木)– 2023/07/13(木)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：絵画は支持体や絵具などの物質でできている。物質に心はない。その物質が私たちの心を揺れ動かす。なぜ？心のない物質が感情表現できるのはどうしてなのか。絵画を見ながらこうした謎を考える糸口をつかみたい。

授業内容：日本その他のモダン・アートや現代美術の作品を画像で映しながら、それぞれの作品がどう見えるのかを理解し、作品がどういうふうになり立っているのかを考えます。そして作品からえられる感覚的なテイスト(味わい)を吟味してみましょう。

学科科目：後期学科授業名：「絵画講座」 担当教員：宮田徹也

授業期間：2023/10/07(土)– 2024/02/03(土)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：芸術を通じて、人間を知る。己と他者を区別して考え、他者と自己の気持ちを理解し、他者の立場になって自己を考える。人間を知るためには、人文科学、自然科学、科学に定義されていないものも学ぶ必要がある。芸術が、人間を取り巻く事物と事象のどこに位置するのかを確認しなければならない。それを、制作に繋げる。

授業内容：宮田徹也『芸術を愛し、求める人々へ』（論創社 | 2020年 | ISBN978-4-8460-1895-5 C0070）の該当箇所（章を跨いだ通し番号）を予め読んで来てください。その上で考え、質問し、意見を交換する。意思が通じるコミュニケーションは、対面でもオンラインでも可能だ。レポートとは課題ではなく、自主的な筈だ。予習、学習、復習は、一生、続いていく。

学科科目：前期学科授業名：「版画講座」 担当教員：今井圭介

授業期間：2023/04/15(土)– 2023/07/08(土)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：版画の用語や技法についての解説からはじめ、浮世絵版画や日本の近・現代版画の紹介を実際の作品や資料、画像使ってわかりやすくみていきます。

授業内容：「版画」という言葉は明治の終わり頃につくられた造語です。それは版がもつ独自の表現による、版からこそ創出される画（え）ということ強く意識して生み出されたものでした。そうした版画についてルーツをたどったり実物や資料、画像をみたりしながら、より一層に理解を深めていくことを目標にします。

学科科目：後期学科授業名：「版画概論」 担当教員：天野純治

授業期間：2023/11/02(木)– 2024/02/08(木)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：この授業では現代版画とは何かを考えることを目標とします。現代版画や現代美術について多くの作品を鑑賞し、様々な作品が持つ魅力やコンセプトを知って行きます。それら作品の変遷、現代美術史に理解を深めることから個々の制作の可能性を拓けることを目標とします。

授業内容：現代美術作品、現代版画作品の鑑賞。ポップアート以降、現在に至るまでの様々な作品の鑑賞を通してその作品の魅力とコンセプトの研究を行い、現代版表現を考える。自身の作品をより理解し、制作の可能性を拓けることを目的に、個々の作品のプレゼンテーションを行う。

学科科目：前期学科授業名：「日本語1(留学生対象)」 担当教員：蔣 燕萍

授業期間：2023/04/12(月)-2023/6/30(金)

授業時間：9：20-10：50/11：00-12：30

修得単位：3 単位

学習目標：①日本語能力試験 N1 対策：N1 の試験に合格できる力をつける。

②語彙力の向上。

授業内容：1. 1 分間スピーチ (30分)

2. 美術関係記事についてのディスカッション (50分)

3. 映像教材を用いた美術用語導入 (90分)

4. 前回導入した美術用語のチェック小テスト (10分)

5. 課外宿題

・言語知識、読解、聴解の実戦練習。

・模擬試験。

※留学生対象授業。

学科科目：後期学科授業名：「日本語2」 担当教員：メロス言語学院教員

授業期間：2023/10/05(木)-2023/11/30(木)

授業時間：13：30-16：30

修得単位：1 単位

学習目標：目上に対する日本語表現とカジュアルな日本語表現の向上を目標として挙げます。

授業内容：前半 90 分、後半 20 分=映像教材を見て、語彙の聞き取り+ディスカッション。

後半 70 分= (1) 会話表現+ロールプレイ (15 分)

(2) 1 分間スピーチ (15 分)

(3) Show & Tell (40 分)

実技科目：実技授業名：「総合研究」

担当教員：工藤礼二郎、鈴木吐志哉

授業期間：2023/04/10(月)–2023/07/15(土)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1～16 単位

学習目標：「アート・デザイン専門課程」における各自の研究テーマに即したカリキュラムを組み立て、それらが修了制作にいかにつながるかを検証しながら、学習する。

授業内容：前期本科2、3年のカリキュラム履修もしくは自主研究。

実技科目：実技授業名：「修了制作」

担当教員：工藤礼二郎、鈴木吐志哉

授業期間：2023/09/01(金)–2024/01/23(火)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：16 単位

学習目標：「アート・デザイン専門課程」における実技の集大成としての作品制作及び、プロの作家として、またクリエイティブ業界においてより実践的に対応しうるポートフォリオの制作。

授業内容：修了作品の制作。ポートフォリオの完成。

研究科 アート・デザイン専門課程 単位一覧

■デザインビジネスコース

イラストレーション・絵本専攻分野／グラフィックデザイン専攻分野
／メディアデザイン専攻分野

	授業科目		履修形式	単位数	
学 科	日本語 1		選択	3	
	日本語 2		選択	1	
実 技	総合研究	総合研究	必修	1～16	
	小計 16 以上				
	※修得する科目の合計が 16 単位以上にならない。				
修了制作	研究テーマ制作／修了制作		必修	1～16	
合計				32	

学科科目：前期学科授業名：「日本語1(留学生対象)」 担当教員：蒋 燕萍

授業期間：2023/04/12(月)-2023/6/30(金)

授業時間：9：20-10：50/11：00-12：30

修得単位：3 単位

学習目標：①日本語能力試験 N1 対策：N1 の試験に合格できる力をつける。

②語彙力の向上。

授業内容：1. 1 分間スピーチ (30分)

2. 美術関係記事についてのディスカッション (50分)

3. 映像教材を用いた美術用語導入 (90分)

4. 前回導入した美術用語のチェック小テスト (10分)

5. 課外宿題

・言語知識、読解、聴解の実戦練習。

・模擬試験。

※留学生対象授業。

学科科目：後期学科授業名：「日本語2」 担当教員：メロス言語学院教員

授業期間：2023/10/05(木)-2023/11/30(木)

授業時間：13：30-16：30

修得単位：1 単位

学習目標：目上に対する日本語表現とカジュアルな日本語表現の向上を目標として挙げます。

授業内容：前半 90 分、後半 20 分=映像教材を見て、語彙の聞き取り+ディスカッション。

後半 70 分= (1) 会話表現+ロールプレイ (15 分)

(2) 1 分間スピーチ (15 分)

(3) Show & Tell (40 分)

実技科目：実技授業名：「総合研究」

担当教員：山本哲次、岡山拓史、飯田 淳

授業期間：2023/04/10(月)–2023/07/15(土)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1～16 単位

学習目標：「アート・デザイン専門課程」における各自の研究テーマに即したカリキュラムを組み立て、それらが修了制作にいかにつながるかを検証しながら、学習する。

授業内容：オーダーメイドカリキュラムシステムによるそれぞれ専攻分野の前期本科2、3年のカリキュラム履修及び習得。

実技科目：実技授業名：「研究テーマ制作」

担当教員：山本哲次、岡山拓史、飯田 淳

授業期間：2023/09/01(金)–2023/01/23(火)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1～16 単位

学習目標：クリエイティブ業界への就職に向けた個別指導。作品制作だけでなく、エントリーシートから面接対応、各業界の特性やビジネスルールを学び、希望する企業への就職を目指す。

授業内容：オーダーメイドカリキュラムシステムによるそれぞれの専攻分野による後期授業の履修。ポートフォリオ(就職試験用)の完成。最終的に日本のクリエイティブ業界への就職を目指す。

研究科 美術進学課程 単位一覧

■ 絵画専攻分野 / 版画専攻分野

	授業科目		履修形式	単位数
学 科	日本語 1		選択	3
	日本語 2		選択	1
	絵画概論		選択	2
	絵画講座		選択	1
	版画概論		選択	1
	版画講座		選択	1
	表現演習 1		選択	1.5
	表現演習 2		選択	1
	文章表現 1		選択	2
	文章表現 2		選択	1
	総合研究	総合研究ゼミ 1	必修	1~16
小計 16 以上				
※修得する科目の合計が 16 単位以上にならない。				
修了制作	総合研究ゼミ 2	必修	1~16	
合計			32	

学科科目：前期学科授業名：「絵画概論」 担当教員：早見 堯

授業期間：2023/04/13(木)– 2023/07/13(木)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：絵画は支持体や絵具などの物質でできている。物質に心はない。その物質が私たちの心を揺れ動かす。なぜ？心のない物質が感情表現できるのはどうしてなのか。絵画を見ながらこうした謎を考える糸口をつかみたい。

授業内容：日本その他のモダン・アートや現代美術の作品を画像で映しながら、それぞれの作品がどう見えるのかを理解し、作品がどういうふうになり立っているのかを考えます。そして作品からえられる感覚的なテイスト(味わい)を吟味してみましょう。

学科科目：後期学科授業名：「絵画講座」 担当教員：宮田徹也

授業期間：2023/10/07(土)– 2024/02/03(土)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：芸術を通じて、人間を知る。己と他者を区別して考え、他者と自己の気持ちを理解し、他者の立場になって自己を考える。人間を知るためには、人文科学、自然科学、科学に定義されていないものも学ぶ必要がある。芸術が、人間を取り巻く事物と事象のどこに位置するのかを確認しなければならない。それを、制作に繋げる。

授業内容：宮田徹也『芸術を愛し、求める人々へ』（論創社 | 2020 年 | ISBN978-4-8460-1895-5 C0070）の該当箇所（章を跨いだ通し番号）を予め読んで来てください。その上で考え、質問し、意見を交換する。意思が通じるコミュニケーションは、対面でもオンラインでも可能だ。レポートとは課題ではなく、自主的な筈だ。予習、学習、復習は、一生、続いていく。

学科科目：前期学科授業名：「版画講座」 担当教員：今井圭介

授業期間：2023/04/15(土)– 2023/07/08(土)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：版画の用語や技法についての解説からはじめ、浮世絵版画や日本の近・現代版画の紹介を実際の作品や資料、画像使ってわかりやすくみていきます。

授業内容：「版画」という言葉は明治の終わり頃につくられた造語です。それは版がもつ独自の表現による、版からこそ創出される画（え）ということ強く意識して生み出されたものでした。そうした版画についてルーツをたどったり実物や資料、画像をみたりしながら、より一層に理解を深めていくことを目標にします。

学科科目：後期学科授業名：「版画概論」 担当教員：天野純治

授業期間：2023/11/02(木)– 2024/02/08(木)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：この授業では現代版画とは何かを考えることを目標とします。現代版画や現代美術について多くの作品を鑑賞し、様々な作品が持つ魅力やコンセプトを知って行きます。それら作品の変遷、現代美術史に理解を深めることから個々の制作の可能性を拓けることを目標とします。

授業内容：現代美術作品、現代版画作品の鑑賞。ポップアート以降、現在に至るまでの様々な作品の鑑賞を通してその作品の魅力とコンセプトの研究を行い、現代版表現を考える。自身の作品をより理解し、制作の可能性を拓けることを目的に、個々の作品のプレゼンテーションを行う。

学科科目：前期学科授業名：「日本語1(留学生対象)」 担当教員：蔣 燕萍

授業期間：2023/04/12(月)-2023/6/30(金)

授業時間：9：20-10：50/11：00-12：30

修得単位：3 単位

学習目標：①日本語能力試験 N1 対策：N1 の試験に合格できる力をつける。

②語彙力の向上。

授業内容：1. 1 分間スピーチ (30分)

2. 美術関係記事についてのディスカッション (50分)

3. 映像教材を用いた美術用語導入 (90分)

4. 前回導入した美術用語のチェック小テスト (10分)

5. 課外宿題

・言語知識、読解、聴解の実戦練習。

・模擬試験。

※留学生対象授業。

学科科目：後期学科授業名：「日本語2」 担当教員：メロス言語学院教員

授業期間：2023/10/05(木)-2023/11/30(木)

授業時間：13：30-16：30

修得単位：1 単位

学習目標：目上に対する日本語表現とカジュアルな日本語表現の向上を目標として挙げます。

授業内容：前半 90 分、後半 20 分=映像教材を見て、語彙の聞き取り+ディスカッション。

後半 70 分= (1) 会話表現+ロールプレイ (15 分)

(2) 1 分間スピーチ (15 分)

(3) Show & Tell (40 分)

学科科目：前期・後期学科授業名：「表現演習1・2」 担当教員：蒋 燕萍

授業期間：2023/07/05(水)– 2023/12/18(月)

授業時間：13：30–16：30

修得単位：1.5 単位／1 単位

学習目標：思考力、研究テーマをより深く掘り下げ、大学院への進学に十分対応可能な能力を身につけることを目標としています。

授業内容：それぞれのニーズに合わせて個別対応にてサポートします。

学科科目：前期・後期学科授業名：「文章表現1・2」

担当教員：蒋 燕萍、中田真梨子

授業期間：2023/04/11(火)– 2024/01/12(金)

授業時間：13：30–16：30

修得単位：2 単位／1 単位

学習目標：文章の練習・添削を通じて、小論文、研究計画書、志望理由書などの上達を期待します。

授業内容：本授業では、小論文／研究計画書／出願書類の書き方を学びます。対面授業では、各書類の書き方の基礎を学びます。添削では、みなさんが書いた小論文／研究計画書／出願書類の日本語と内容をチェックし、読み手に伝わる文章力を身につけます。

実技科目：前期実技授業名：「ドローイング」

担当教員：工藤礼二郎、鈴木吐志哉、山本 晶、山口 藍、川邊真生

授業期間：2023/04/13(木)– 2023/06/09(金)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：アイデアを点・線・面・色彩などの描画によって形に起こす作業をし、造形の幅を広げる素材の研究をすることにより、より豊かなドローイング表現を探る。

授業内容：現代の作家はテキストをもとに様々な作品を展開しているが、想像、アイデアを形にする方法として古典絵画よりドローイング、すなわち描画という手法が使われているこれらを研究、実践することにより自身の潜在的な想像を探る。全6回。各回でテーマを設定。全て受講することによりドローイングの概要が会得できる内容。

実技科目：前期実技授業名：「現代美術演習」 担当教員：黒瀬陽平

授業期間：2023/06/20(火)– 2023/09/26(火)

授業時間：9：20–10：50/11：00–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：カリキュラム全体を通して各自が制作テーマ、モチーフを発見し、自分なりの制作プロセスを組み立て、作品を完成させることを目標とします。講義では、個別の作品分析、事例分析を中心に進めますが、学生からの質問やリクエストに応じて内容は変化します。

授業内容：現代美術への理解を深め、作品制作を進めてゆくために、講義と課題制作、セッション（課題作品についてのプレゼン、ディスカッション）、講評会を組み合わせたカリキュラムを組んでいます。課題制作とセッションを繰り返すことで、学生ひとりひとりの制作プロセスに応じた指導を行います。講義では狭義の現代美術に限らず、サブカルチャーも含めた他ジャンル、他メディアの作品を数多く扱います。

実技科目：実技授業名：「絵画総合研究ゼミ 1・2」

担当教員：工藤礼二郎、山本 晶、山口 藍、川邊真生

授業期間：2023/04/10(月)–2023/09/30(土) 2023/10/02(月)–2024/02/27(火)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1 単位～16 単位

学習目標：これまで研究してきたテーマを基に、研究計画書を完成し、志望校に対応できる作品制作及び受験用ポートフォリオの充実を目指す。

授業内容：各自の研究テーマに合わせた作品の制作。

実技科目：実技授業名：「版画総合研究ゼミ 1・2」

担当教員：鈴木吐志哉、東樋口徹、中村真理、馬場知子、舒顔

授業期間：2023/04/10(月)–2023/09/30(土) 2023/10/02(月)–2024/02/27(火)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1 単位～16 単位

学習目標：■ 版画表現における各自のテーマにそった表現方法・版種・コンセプトを考察・研究・制作する。

■ 必要に応じて版画2年の技法実習と並行し、版画技法のさらなる充実を目指す。

■ 年間を通しての作品制作を行うことで、日々、ポートフォリオの内容をより充実させることを目指す。

授業内容：[前期] ・版画作品を2点以上制作。(2年版画実習作品含む)

- ・ポートフォリオ制作
- ・作家研究

[後期] ・版画作品を4点以上制作。

- ・ポートフォリオ制作

実技科目：前期実技授業名：「シルクスクリーン」 担当教員：東樋口徹

授業期間：2023/04/10(月)– 2023/05/06(土)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：2単位

学習目標：シルクスクリーン版画制作を通して孔版画の専門的知識を習得し、自己表現に結びつくよう学習します。基本の直接製版方法を重ねて実習し、環境にやさしい水性インクを使用して刷紙に刷ります。PCを使用した4色分解による4版4色の作品（18×25cm位）を1点、5版以上を使った作品（25×38cm位）を1点制作、色を刷り重ねる時の表現効果、用具資材の正しい使い方、手順を覚え多彩な効果を会得していきます。

授業内容：基本的な水性インクで紙に刷る4版4色を使った作品（A4／21cm×29.7cm）を一点（紙4枚程度）、5版以上を使った作品（A3／29.7cm×42cm）を一点（紙8枚程度）制作。

実技科目：前期実技授業名：「銅版画」 担当教員：馬場知子

授業期間：2023/05/08(月)– 2023/05/30(火)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：2単位

学習目標：銅版画の制作プロセスを修得し、作品を完成させます。銅版画には様々な技法がありますが、エッチングを中心に物質の変容と結びついた腐食技法の多様な表現に触れます。版を媒介することで生じる他者性を柔軟に取り入れながら自分の表現の世界を広げましょう。

授業内容：まずテストプレートで様々なマチエール表現を試しながら「道具、薬品の使い方」「描画」「製版」「刷り」の作業工程を理解し体得していきます。本作では自分のイメージの具現化に必要な表現や技法を選択し制作します。
(わからないことはなんでも聞いてください。安全に楽しく制作しましょう)

実技科目：前期実技授業名：「リトグラフ」 担当教員：中村真理

授業期間：2023/05/31(水)– 2023/06/22(木)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：2 単位

学習目標：講義、実習を通してリトグラフの製版方法や刷りの行程を学び理解を深め、リトグラフの特性を活かした制作を行う。

授業内容：リトグラフの特性を利用し、個々の表現したいテーマに基づき制作する。4 版種の中でリトグラフの版作りは彫るのではなく「描く」という行為に最も近い版、ドローイングの様に手を動かして版づくりを行い自分自身で体験しながらリトグラフの仕組みを学んでいく。

実技科目：前期実技授業名：「木版画」 担当教員：鈴木吐志哉

授業期間：2023/06/23(金)– 2023/07/15(土)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：2.5 単位

学習目標：水性多色木版画作品制作および基本技術と技法の展開。

授業内容：1 年次の「専攻別ワークショップ（版画専攻）」で体験した水性木版画 1 版単色をこの授業ではさらに多色木版画に展開していくことで、木版画技法の充実と色彩について研究します。水性多色木版画の技法は浮世絵に見られるように日本独自の進化を遂げた技法でもあります。古来からの技法と現代の技法を駆使して自由な発想で制作してもらいます。・版木サイズ 3 0 0 × 2 2 5 mm（4～5 版多色）

研究科 美術進学課程 単位一覧

■イラストレーション・絵本専攻分野／グラフィックデザイン専攻分野
／メディアデザイン専攻分野

	授業科目		履修形式	単位数	
学 科	日本語 1		選択	3	
	日本語 2		選択	1	
	表現演習 1		選択	1.5	
	表現演習 2		選択	1	
	文章表現 1		選択	2	
	文章表現 2		選択	1	
実 技	総合研究	デザイン総合研究ゼミ 1	必修	1～16	
	小計 16 以上				
	※修得する科目の合計が 16 単位以上にならない				
修了制作	デザイン総合研究ゼミ 2	必修	1～16		
合計				32	

学科科目：前期学科授業名：「日本語1(留学生対象)」 担当教員：蔣 燕萍

授業期間：2023/04/12(月)–2023/6/30(金)

授業時間：9：20–10：50/11：00–12：30

修得単位：3 単位

学習目標：①日本語能力試験 N1 対策：N1 の試験に合格できる力をつける。
②語彙力の向上。

授業内容：1. 1 分間スピーチ (30分)

2. 美術関係記事についてのディスカッション (50分)

3. 映像教材を用いた美術用語導入 (90分)

4. 前回導入した美術用語のチェック小テスト (10分)

5. 課外宿題

・ 言語知識、読解、聴解の実戦練習。

・ 模擬試験。

※留学生対象授業。

学科科目：後期学科授業名：「日本語2」 担当教員：メロス言語学院教員

授業期間：2023/10/05(木)–2023/11/30(木)

授業時間：13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：目上に対する日本語表現とカジュアルな日本語表現の向上を目標として挙げます。

授業内容：前半 90 分、後半 20 分=映像教材を見て、語彙の聞き取り+ディスカッション。

後半 70 分= (1) 会話表現+ロールプレイ (15 分)

(2) 1 分間スピーチ (15 分)

(3) Show & Tell (40 分)

学科科目：前期・後期学科授業名：「表現演習1・2」 担当教員：蒋 燕萍

授業期間：2023/07/05(水)– 2023/12/18(月)

授業時間：13：30–16：30

修得単位：1.5 単位／1 単位

学習目標：思考力、研究テーマをより深く掘り下げ、大学院への進学に十分対応可能な能力を身につけることを目標としています。

授業内容：それぞれのニーズに合わせて個別対応にてサポートします。

学科科目：前期・後期学科授業名：「文章表現1・2」

担当教員：蒋 燕萍、中田真梨子

授業期間：2023/04/11(火)– 2024/01/12(金)

授業時間：13：30–16：30

修得単位：2 単位／1 単位

学習目標：文章の練習・添削を通じて、小論文、研究計画書、志望理由書などの上達を期待します。

授業内容：本授業では、小論文／研究計画書／出願書類の書き方を学びます。対面授業では、各書類の書き方の基礎を学びます。添削では、みなさんが書いた小論文／研究計画書／出願書類の日本語と内容をチェックし、読み手に伝わる文章力を身につけます。

実技科目：前期実技授業名：「イラストレーション表現」 担当教員：都築 潤

※イラストレーション・絵本専攻分野必修

授業期間：2023/06/12(月)– 2023/09/25(月)

授業時間：13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：イラストレーションについての考察。イラスト作成に必要な基本的な予備演習を行います。

授業内容：イラストトレーニング、既存のメディアへのイラストの実装

1：メディアやテーマの要求に応えるためのイラスト制作

2：イラストレーション、ビジュアルデザインについての考察

実技科目：前期実技授業名：「表現力」 担当教員：澤田泰廣

※グラフィックデザイン専攻分野必修

授業期間：2023/05/16(火)– 2023/06/17(水)

授業時間：13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：学生各自のコミュニケーションデザインの可能性とクオリティの目標値を高める。

授業内容：①様々なデザイン成果の視聴と講義。

②学生各自の仕事への個別アドバイス。

実技科目：前期実技授業名：「発想力」 担当教員：大石恵美子

※グラフィックデザイン専攻分野必修

授業期間：2023/07/10(月)– 2023/09/29(金)

授業時間：13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：アートディレクションの根幹である「ビジュアルでコミュニケーションをする」ための3つの基本的な力を養います。①柔軟な発想力 ②幅広い表現力（得意な技法を極め、不得意・未知の分野に挑戦する）③物量を克服する持久力と執着心

授業内容：1つのテーマから100種類のビジュアルを作ります。

実技科目：前期実技授業名：「クリエイティブ発想」 担当教員：林 規章

※グラフィックデザイン専攻分野必修

授業期間：2023/10/12(木)– 2023/11/07(火)

授業時間：13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習目標：グラフィックデザインについて自身の研究目標を明確に提示する事は大切です。その目標に向かい研究の深度を見つめ、グラフィックデザインの有効性を考えます。

授業内容：参考作品の事例等を解説します。グラフィックデザインについて自身の研究目標を明確にするための意見交換をします。自身が研究するテーマの有効性を考えます。

実技科目：実技授業名：「デザイン総合研究ゼミ1・2」

担当教員：山本哲次、関根慎一、上野仁志、澤田泰廣、都築 潤、
大石恵美子、林 規章、村上寛光、白石慶子

授業期間：2022/04/12(火)-2022/09/30(金) 2022/10/01(土)-2023/02/22(水)

授業時間：9：20-12：30/13：30-16：30

修得単位：1 単位～16 単位

学習目標：①これまで研究してきたテーマを基に、研究計画書を完成し、40点以上の作品制作
による受験用ポートフォリオの充実を目指す。

②研究計画書を完成すること。

③受験用ポートフォリオを完成すること。

授業内容：各自の研究テーマに合わせた作品の制作。

学校法人高澤学園
創形美術学校

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-31-2

TEL 03-3986-1981 FAX 03-3986-1982

URL <https://www.sokei.ac.jp/>

E-mail:sokei @ sokei.ac.jp